

AC PAPER

www.a-crafts.co.jp

エー・シー・ペーパー

ISSUE
10



特集

効率と3次元のデザイン

ふざろいと非効率

HAPPYなオルタナティブをあなたに

AC PAPER

CONTENTS

特集 ふざろいと非効率

CASE 01 「めんどくさい」が面白い 02

CASE 02 やっぱリヴィンテージマンションが好き! 05

CASE 03 手書きという選択肢 11

未来妄想 vol.5 15

消費と愛用

沖縄通信 17

もはやレガシー! 沖縄の外人住宅

ちよつとふざろい。そして、効率的じゃない。古い建物やアンティークの家具に感じる愛おしさは一体なんなのか。長らく考えていたら、そんなところに辿り着きました。どんな効率制的になって、街も製品も均質化されていくけど、それだけじゃきつと味気ない。古いか新しいかは重要ではなくて、手間がかかったり、完璧じゃなかったりするけど、ふとした出会いや喜びをもたらしてくれる。そんなものと、その周りの人々に会ってきました。

CASE 01 「めんどくさい」が面白い

大阪からバスに揺られて約2時間、兵庫県加西市にあるミュージックショップ「Tobira Records」。アクセス良好とは言い難いこの店に揃うのは、店主の依藤さんが目利きして世界中から集めたレコードに...カセットテープ!? なんと、中古でなく新作がほとんどだそう。消えて久しいと思われていたカセットテープが、今国内外で大人気だなんていったいなぜ?

「カセットテープが懐かしいという世代の方に加え、触れたことがないという20代の方が積極的に買われている印象です。曲はスキップできないし独特のノイズもあるけれど、その生々しいところが魅力かもしれません。カセットは生産しやすさもあってか、現在も専門工場が



Tobira Records店主の依藤さん。
Hakobune名義でアンビエントミュージックの
制作もされています。



増えているんですよ。15年ほど前からアメリカを起点に火が点いて人気広がっています。ここには独自の路線で仕入れた、最新作ばかりを置いています」

——この場所でお店を開くことになった経緯は? 「東京で10年ほど会社員をしていたんですが、好きな音楽を買おうと思って店に取り扱いがなくて…。その頃から個人輸入をしていて、『自分



みたいにいる人が他に
もいるんじゃないか?』と思っ
て自分で店をやることにしま
した。
加西は地元です。縁があって
このビルを借りられるように
なったんですが、マニアック
な分野なので多少都心から離
れていても好きな人は来てく
れるかな、と。実際、来店す
るお客さんはほとんどが遠方
からで、先週はアメリカから

も来てくれました」

——朝7:30からオープンする
レコード店なんて珍しいです
ね。

「よく言われます(笑)。ヨー
ロッパのレーベルやお客さん
と連絡することが多いので、
向こうの時間に合わせて生活
しているんですよ。

海外のどこで買うよりここで
買った方が安いですし、掘り
出し物もたくさんあるので、
ヨーロッパから仕入れたもの
をアメリカに売ったり、ここ
が世界のカセットの中継点に
なっています。世界中でドイ
ツに30本、加西に20本しか
存在しないカセットもありま
す(笑)。売り切ったらそれで
おしまい。アナログはその儚
さも愛おしくて魅力のあると
ころですね」

「ポップやヒップホップもあり
ますし、普通に生きてたら死

ぬまで聴かないような音楽も
置いています(笑)。『monotoo』
は物音のことで、英語と同じ
意味の単語がないので日本語
で表記しています。メロディー
がない、いわゆる実験音楽と
呼ばれるジャンルです。この
辺のジャンル、実はお医者さ
んがよく買っていくんですよ」

「コンパクトで可愛らしくて、
カセットテープは集めたくな
るフォルムですね。デジタル
の方が便利さでは勝るけれ
ど、モノで所有していると良
いこともある。例えば10年後
だとかに部屋を掃除してい
たまたま見つけて聴き直した
り…ってのは、アナログでし
かない出会いかなと思っています」



上の世代には懐かしく、若い
世代には新鮮なカセットテー
プ。カセットデッキも新しく
生産されているそう。世界中
の人がリアルタイムで同じ魅
力を感じていると思うと、な
んだかワクワクしませんか?

Tobira Records

675 2312
兵庫県加西市北条町北条 142-9 2F
<https://tobirarecords.com>

1. 入口の扉付近には、海外のアーティ
ストやレーベルスタッフからの直筆の手
紙が貼られています。「いつか来店し
たときに自分の手紙があれば嬉しいかな
と思って。カセットを作るような人ただ
からか、みなさんフィジカルなことが好
きなんでしょうね」と依藤さん。作品へ
の熱い思いが伝わってきます。
2. どのカセットも凝ったデザイン。お目
当ての品があっても、ジャケットに惹か

れて違うものを買って帰る…なんてお客
さんも多いそう。ちなみにすべての商品
が試聴可です。
3. 左：紙製のパッケージ。タバコ型で
カワイイ！ 中央：Fromドイツ、カニの
爪 (!?) 型のカセット立て。なんとこれも
パッケージの一部。 右：世にも珍しい、
黒魔術セット付きのカセット。「音楽を
流しながら付属の紙を燃やすという…お
手軽に呪えるセットになってます」…勇

気ある方は是非。
4. インストアイベントも定期的に開催。
同じビルには本屋とギャラリーが併設さ
れていて、注目のアートのスポットです。
ちなみに「辺鄙な土地ですがバイト募集
中です！ 知識と時間を持て余している
若者がいれば是非。ここにしかない音
楽の世界に飛び込んでみては！

CASE 02 やっぱリヴィンテージマンションが好き！

新しくてカッコいい建物もたくさんあるけど…やっぱりヴィンテージマンションが好き！
でもその魅力って一体なに!? 時間を経ただけじゃない、今見ても素敵なディテールたち。
リノベーションや大阪 R 不動産の取材で数々のヴィンテージマンションを見てきた
アートアンドクラフトの独断と偏見で、注目ポイントをピックアップしてみました。

なんて素敵な 共用部！

真ん中に大きな中庭のある口の字型の
マンションに、どどんとプールがあるマンションまで！

初夏に住人みんなで大掃除をするそうです。

その恒例行事も愛おしい。

千里山グランドハイツ



時代の名残に 思いを馳せる

この建物のためにデザインされた照明や
金物たち。隅々までかわいい！

トヨクニハウス



芦屋アーバンライフ



アーチの開口にぬるんと壁から突き出た照明。

なめらかなカーブを描く外壁など、曲線が
多用されているのも特徴、包まれるような
落ち着いたきさっとこの曲線のおかげ。

エステート岡本



有機的な 曲線美



芦屋アーバンライフ



芦屋アーバンライフ

モザイクタイルにブリックタイル…
少し不揃いだったり色むらがあったり、
手間をかけた模様がなんともかわいい！

かわいい タイルづかい

府公社千里桃山台A-1団地



屋上の共用洗濯物干しに、
玄関ドア横のミルクボックス。
のんびりした昭和の暮らしを感じます。

シーアイハイツ千里桃山台



千里山グランドハイツ



芦屋アーバンライフ

千里山ロイヤルマンション



バリアフリーはもちろん大切だけど、なんでもかんでもフラット！ 段差があったら悪者みたいな昨今。ここには段差が作り出すリズム感に、入り組んだ動線。坂のある街を散策するような楽しみが満載です。

敷地内の階段たち

敷地配置

余裕のある

公園の中にマンションが建っているのかと思ってしまふほどゆったり配置されたマンションたち。コンパクトな敷地に容積率をとにかく消化することを目指す今のマンションだとなかなかできない計画なのかもしれません。

住吉アーバンライフ



ベル・パークシティ

関東では秀和レジデンスが有名ですが、阪神間だとアーバンライフがヴィンテージマンションの代名詞。中でも鱗状の外壁は異国感満載！職人さんがブツブツ言いながら頑張ってくれている図が目に見えます。

ラフウォール (鱗状の外壁)

桜宮リバーシティウエスト



千里山ロイヤルマンション



箕面リリーヴィレッジ



住人の顔が 垣間見える

窓際に花台があるマンションも素敵。王道のゼラニウムを植えているのはマダム？ ちょっと個性的な多肉植物は若い男の人かしら。庭の自由な植栽にも、つつい目が行きます。どんな人が住んでいるかが、ちょっと外に溢れてきてもいいじゃない。

南千里オリーブヴィラ



メカっぽい 近未来感

西長堀スカイハイツ

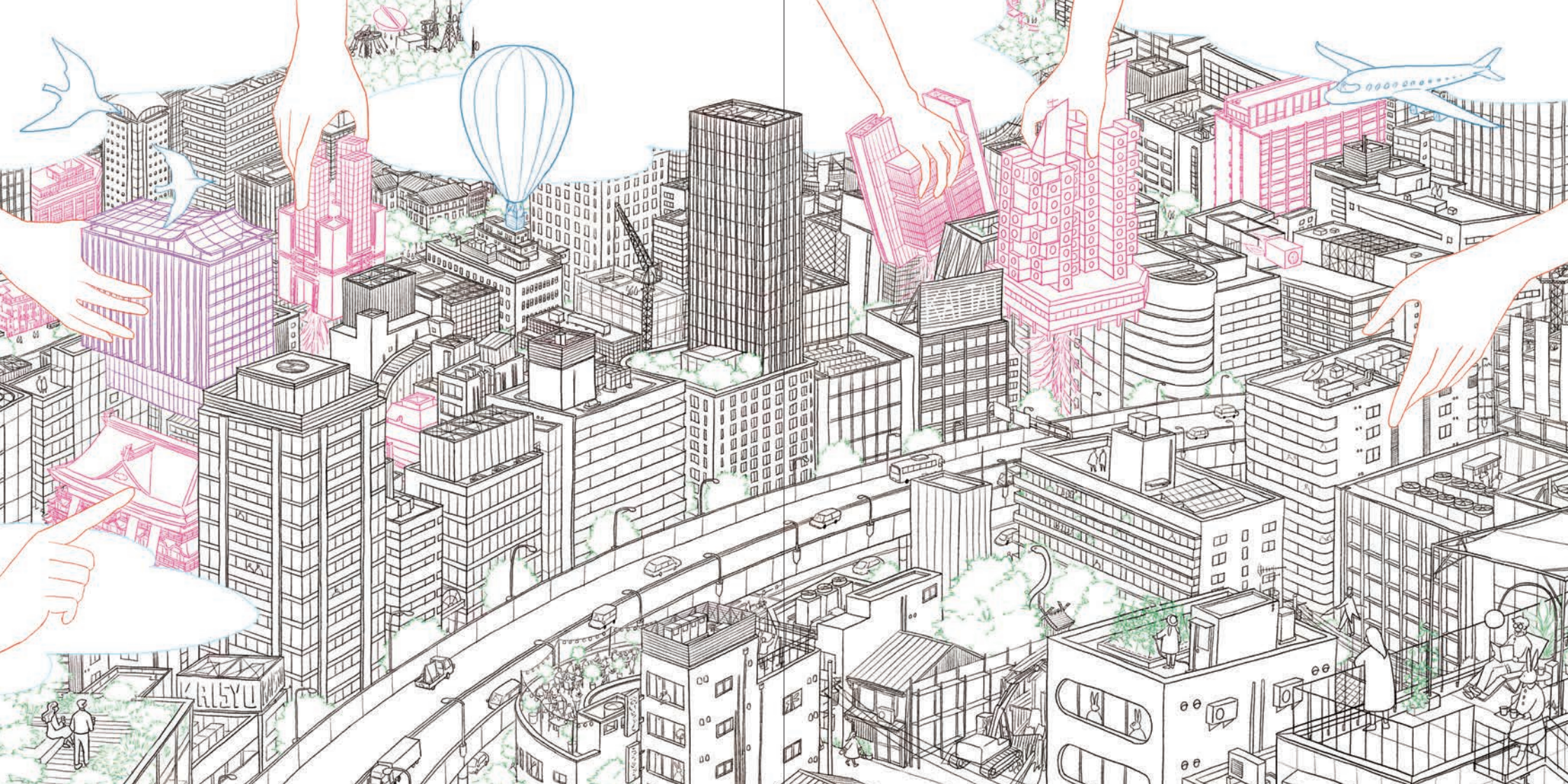


建物からのびる空中廊下、非常階段、建物の外観自体がガンダムみたいなもので。時間を経ても、やっぱり感じる未来感。

メゾン甲子園



うーん。どれも素敵すぎる…。マンション建設が効率化される前の時代。試行錯誤しながらだからこそあらわれる当時の人の遊び心や、全体から醸し出される余裕のある時代の余韻に憧れを抱くのかもかもしれません。不動産の価値はどうしても築年数でジャッジされがちですが、古い / 新しいだけでなく、定性的な魅力を評価できるようになりたいなあと思うものです。



CASE 03 手書きという選択肢

看板、と聞いて思い浮かべるのは？ 商業施設の巨大サインから、居酒屋の提灯…いま街にあふれる新しい看板のほとんどは機械で出力されたもの。そんなご時世に、一見非効率とも思える手書き看板にこだわる職人がいます。グラフィックデザインのかたわら、手書き看板を主軸に活動する看板屋「看太郎」の廣田さんにお話を伺いました。

「70-80年代から塩ビシートのカッティングマシンやインクジェット出力機が発達し、デジタルで作成した意匠データを印刷するのが当たり前になるとともに、手書き看板を新しく作ることが減っていきました。看板屋さんという職業はあっても、仕事の内容が『書く』から『(シートを)貼る』ことに変化しています。たとえばマンションの完成予想図でも、

現在ではCGになっている部分をかつては職人さんが手で描いていました。パソコンの普及とともに、デザインはデザイナー、製作施工は看板屋、という分業に変わって専門性が高まった反面、両方を行き来している人が減っているなあと感じていて…。私自身は実際の現場まで手掛けたいと思い、昔ながらの看板屋さんの仕事の流れを意識しています。必ずしも現場を知っていないといけないわけではないですが、その場に立って書く・つくるとするのは街全体を含めたデザインを考えられるというメリットがあります。看板は遠くからの視認性や景観としてどう見えるかも大切なので」

現在、街にあふれるのは手書き文字ではなく、デザインされたフォント

壁の凹凸面を活かした、風合いのあるペイント。思わず写真に撮りたい魅力があります。



街の景観に溶け込んだ、昔ながらの看板。看板職人は景観をつくるデザイナーでもあったのです。
撮影：Tomooki Kengaku

(統一された書体)。効率化された結果ともいえますが、看板においては一概にそうとも言えないそう。

「フォントはもともと書籍など、長い文章の情報をわかりやすく伝えるためのもの。看板は『私たちはこういう者です』という短い自己紹介なので、字はそれぞれで違う方が良いのでは、と考えています。日本語のフォントを作るには膨大な文字数のデザインが必要ですが、看板だと数文字でお客さんを表す言葉に寄り添い、アイデンティティの手助けをすることもできます。限りある面積の看板であっても、手書きだと違和感なく長体や平体などを使い分けて瞬時に編集ができます」

先日、「超看板」という展覧会を行った廣田さんですが、もともとはストリートアートに興味を持っていたと話します。

「『特別な知識を持っていなくても、お金を払わなくても誰でも見られるアート』という点に強く惹かれていて。ニューヨークへ行ったりもしました。特に看板はお店さえあれば何十年でもそこに存在し

ますよね。いろんな素材が使えたり、光らせたり回せたり…グラフィックや、プロダクト、建築的要素もあり、面白いな、と。もっとできることはあるんじゃないかと考えています」

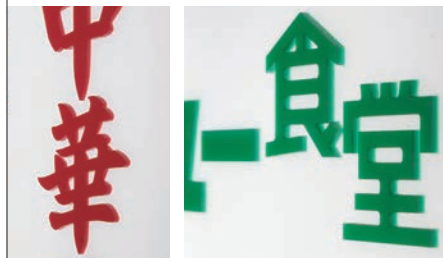
「ネオンサインも、LEDが普及するとともにどんどん減ってきています。昔はネオンといえばパチンコ屋さんなど、外壁をネオンで埋めつくすような仕事が主流だったと聞きますが。ネオン管はガラスでできているのですが、ガラスならではの手工芸の風合いとともに、衝撃を加えると



壁に直接ペイントしている制作過程。
勢いのある文字がかっこいい！

「行灯(あんどん)サイン」と言われる、アクリル板を使用した内照式の看板。「薄いアクリル板を文字のかたちに切って貼り付けています。これだと中から光らせても文字が透けずムラができません。最近は作られることが減りましたが、昔ながらの技法です」これも廣田さんのお仕事。いつも見ている景色の中にあるかも？

撮影：Kiyotoshi Takashima



割れることもあります」

ネオンも手書きも、現在主流の技法より手間とコストがかかるという共通点。差異に気付く人は決して多くはない中で、わざわざ依頼してくださる方には熱意を感じると語ります。



最近では小型のものが多くなったネオンサイン。ガラス管にネオンガスやアルゴンガスを封入し、電気を通して光らせる仕組みです。撮影：Taio Konishi 製作：マヴェリック



「看板に対する熱量がある方は、お店のアイデンティティもはっきりしていると感じます。また、看板にもこだわる飲食店は『良い店』が多い気がします。ひと昔前は『字の上手な看板屋さんに書いてもらおうと店が繁盛する』と言われていたこともあったようです。そういう意識がお店の方にも浸透していたことはすごくいいことだし、均一化されていないということですね。手書き看板は同じ店(人)が存在しないように、まったく同じデザインにならない、コピペできない世界。そろっていないというのが魅力なんです」

「ただ、私は塩ビシート(カuttingシート)やLEDのような現代の手法に否定的というわけではありません。シートでしかできない表現もあるので、適材適所で使えばいい。選択肢が多いというのが一番豊かな状態だと考えています。お客さんの選択肢の中にあたりまえに手書きペイントがもう一度現れてくれたらいいな、と考えています」



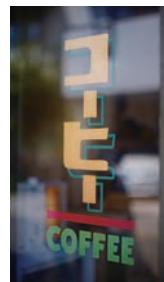
「これから後継者が続くような仕事として継続していくかは心配ですね…。昔ながらの看板職人はほとんどが自己流で『背中を見て学ぶ』やり方だったので文献などアカデミックに残っていないんです。しかも、昭和初期以前の看板で主流だった『楷書体』をメインで仕事にしていた職人さんは知ってい

る限りでは二人しか存じ上げません。看板観察の本を買って漁ったり、もうすぐ撤去されそうな看板は写真を撮りに行ったりして、どうにか記録を残そうと奔走中です。書籍がいいのか映像がいいのか模索中ですが、ノウハウや技術を次世代に残していきたい」

「今後、手書き広告などもやってみたいです。昭和の映画看板のように、同じ場所でも2、3か月に一度書き換えるような…。書いている様子も広告になるから、けっこう宣伝効果はあるんじゃないでしょうか(笑)。そういうことをやりたい、という若い人が出てきてくれたとしても、仕事がたくさんあるわけではないし発注する人も存在を知らなかったりするのではなかなか難しいのですが…。でもSF映画などを観ていると、

未来を描いた街並みでもだいたい看板は残っているんですよ。『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の空飛ぶ看板だとか(笑)、デジタル社会になったときの看板の姿にも夢を抱いています。この世に商い(人の生活)がある限り、看板は残っていくと感じています」

廣田さんが手がけた、名古屋「TOUTEN BOOKSTORE」のペイント看板。「ふわっとしたニュアンスをペイントでやってみよう」と挑戦しました。町の本屋さんも数が減ってきているので、『興味』『好奇心』を見つける場所として本屋を残そうとしているオーナーの温故知新のテーマが自分と重なるところがあり、とても応援しています」



看太郎／廣田碧さん
Instagram: @kantaro_signs

積み重なった技術が詰まった手書き看板。一見非効率とも思えるやり方の中に効率があったりと、画一的でない魅力がそこにありました。いつもは見過ごしている看板も、じっくり見てみると新たな発見があるかもしれません。

未来 妄想 Vol. 5

消費と愛用

「割りばしから車まで」という本を知っていますか？ 工業デザイナーの秋岡芳夫さんが1971年に書いた本です。副題として一消費者をやめて愛用者になろうとあります。

ヴィンテージとはもともとワインの製造年を表す言葉らしいのですが、「古くて価値が高いもの」「年代もの」を意味するようです。ジーンズや車がイメージしやすいですね。他にも色々なジャンルでヴィンテージがありますが、どういったものがヴィンテージになることができるのか？ 愛用されるものにはどういう秘訣があるのでしょうか？

僕がいま所有しているもので一番古いものはP200Eというバイクだと思います。手に入れたのは8年前。40年以上前に製造されたバイクで、修理にお金がかかるうえに、何発もキックをしないとエンジンはかからないし、ガソリンは混

合給油で面倒くさい。200CCなのに80キロくらいしか出ないし、むしろ出すと恐い。だけどその煩わしさやどんくさすら愛着に変わってしまい、多少の傷やサビはそれすら愛らしい。大切な人に譲る以外は手放さないと決めています。デザインが好きなことは言わずもがなですが、それに加えて丈夫であって、長持ちして、壊れても直せることが愛用されるものの要素として大切なのかなと思います。どれだけ燃費の良い車でも10年足らずで消費されてスクラップされてしまえば、燃費が悪くても20年、30年と乗り続けられる方が全然SDGsだと思うんです。

2018年に手掛けた鶴身印刷所（新築されたのは少なくとも昭和14年以前）を施工しているとき、すぐ近所でプレハブのアパートが建設されていました。建物のボリュームは鶴身印刷所と同じくらい。僕らの方がずいぶん早く着工した

はずなのに、あっという間に追い抜かれて竣工していた。工業化ってすげーなーと思いつつも同時に、あのアパートが鶴身印刷所と同じくらいの築年数をまっとうできるのだろうかとも。

一生でいちばん大きな買い物と言われるマイホーム。日本の住宅は20年で価値がゼロになる、なんてことはない。消費的につくられた建築は短寿命で解体されてしまいますが、魅力のある建築は何年にもわたって不動産の価値を保てることを僕は知っています。新築の着工数はこれから減少の一途を辿るのは明白です。だから

こそ、新築される建築はながく愛用され、多世代に受け継がれていくものであってほしいですし、僕らはこれからもリノベーションで資本主義や消費社会にあらがっていきます。

西川 純司
にしかわ・じゅんじ

アートアンドクラフト副社長。
建築・不動産の領域を横断しながら
企画、コンサルティングを行う。
双子の父親。愛車は940とP200E。
一級建築士。宅地建物取引士。



キャンプ道具と妻を乗せて九州を周遊。

もはやレガシー！ 沖縄の外人住宅

シ中

速報！

まんまミッドセンチュリー「泊まれる外人住宅」爆誕！

詳しくは、SPICE MOTELの公式webをご覧ください。



外人住宅の街なみ
庭が広く敷地にゆとりがあります



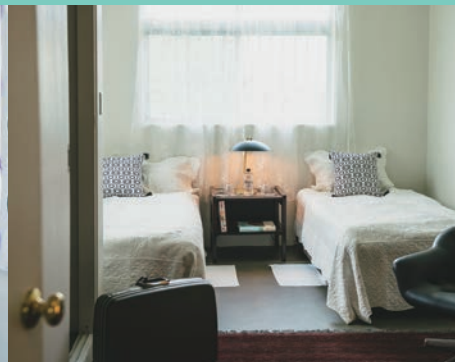
解体されてしまった基地内の住宅たち
(西普天間地区)



泊まれる外人住宅 Mid-Century House YOGI
半世紀前の住宅がリノベーションで甦りました



ミッドセンチュリー感満載のインテリア (YOGI)



外人住宅には住めなくても一度は泊まってみたい！
(YOGI)

はいさーい。SPICE MOTEL
OKINAWAからお届けする沖
縄通信です。

外人住宅をご存知ですか？ 戦
後沖縄で米軍のために建てら
れた住宅、特にコンクリート
平屋のフラットハウスを沖縄
で「外人住宅」と呼びます。

当時、基地内だけでは数が足
らず、1950-1960年代にか
け民有地にも12000戸ほどの
外人住宅が建てられたとか。
そんな外人住宅、戦後すぐな
ら先進的な家だと人気も納得
ですが、半世紀を経てボロボ
ロで夏は灼熱なのに何故いま
も大人気なの？

「建てられたミッドセンチュ
リー時代の雰囲気が好き」
「キッチンやバスルームの設
備機器が超絶かわいい♪」
「庭が広い！ 外人住宅が建つ
街なみそのものが素敵！」
などがその理由。

ですが今、その外人住宅が危

機なのです！
基地の返還で外人住宅が一気
に壊され、民間の住宅地でも
老朽化で解体が進んでいます。
近い将来に沖縄から外人住宅
が消滅する!?

人気があるのにモノがない。
アンティーク家具やクラシッ

クカーの高騰と同様、外人住
宅の家賃も年々上がっていま
す。売買物件も10年で倍にな
りました。でもぼったくりで
なく、状態キープのためにそ
うせざるを得ない事情もある
ようです。

いまや観光資源や建築遺産と

して、外人住宅は沖縄の宝に
なったと思います。たとえ民
間の建物であっても「改修工
事の支援」や「まちなみ保存
への補助金」をすべきタイミ
ングでは？ デニー知事、ゼ
ひお願いします！

糸通

糸通

Tsushima

Vol.7



SPICE MOTEL

<http://spicemotel.com>

HAPPYなオルタナティブをあなたに

AC PAPER

発行日：2023年2月1日

発行人：アートアンドクラフト

編集：松下文子、吉田奈波

写真(表紙)：中村寛史

写真：坂下丈太郎 (P2-4)、看太郎提供 (P11-14)

その他はA&C提供

イラストレーション (P9-10)：杉中真由美

デザイン：一野篤

印刷：有限会社 修美社

製本：大竹口紙工株式会社

[株式会社アートアンドクラフト]

大阪本社 (オフィス&ショールーム)

550 0003 大阪市西区京町堀 1-13-24-1F

電話：06 6443 1350

神戸事務所

650 0003 神戸市中央区山本通 1-7-15-2D

電話：078 231 1008

沖縄事務所

901 2311 沖縄県中頭郡北中城村喜舎場 1066

電話：098 975 8090

那覇サテライトオフィス

沖縄県那覇市壺屋 1-6-2-3F

営業時間：10:00-18:00 水日祝休

一級建築士事務所、宅地建物取引業、建設業、古物商許可

均質化されていない住まい

あたらしい都市居住のスタイル

Arts&Crafts

あらたな視点で再発見！

不動産のセレクトショップ

大阪 R 不動産

— REAL OSAKA ESTATE —

セレクト型リノベーション

TOLA

renovation with pre-produced design system by Arts & Crafts

いつか観たロードムービーの世界へ

スパイスモーターホテルオキナワ

SPICE MOTEL

編集後記

カセットに手書き看板!?

古いようで新しいものたち。

見れば見るほど楽しくて

沼にハマってしまいそう。

時短もいいけどたまには

じっくり、ゆっくりと。

非効率って、悪くないやん!